# 福島１丁目所在遺跡発掘調査（ＦＫ０４－１・２次）現地見学会資料

平成17年１月19日（水）
大阪市教育委員会
（財）大阪市文化財協会

大阪市教育委員会と（財）大阪市文化財協会は平成16年10月から福島１丁目所在遺跡の発掘調査を進めてきました（図１）。その結果、江戸時代の蔵屋敷の遺構が検出されました。

## 「天下の台所」堂島と蔵屋敷

現在の調査地を含む堂島地域は江戸時代のはじめには堂島川ぞいの低地だったようですが、貞享～元禄年間（17世紀の後葉）に河村瑞賢により堂島川の改修が行われ、その上げ土で整えられました。その後開発され、蔵屋敷が建ち並びました。蔵屋敷は江戸時代に諸大名が年貢米や特産物を販売するために設け、屋敷と倉庫を兼ねた施設で、堂島地域と南側の中之島とに集中していました（図３～５）。堂島には米を売買する市場もあり、この地域は経済や流通の拠点となっており、「天下の台所」の中心地でした。

調査地について江戸時代の地図で見ると、福沢諭吉が生まれ育ったことで知られる豊前中津藩をはじめとする屋敷が位置していたと考えられます（図６）。

なお、東に隣接する地点では平成９～１０年に発掘調査がなされ（図２）、蔵屋敷の跡と、その下層で陶器を焼いた窯跡が見つかるなど、重要な成果が得られています。

## 見つかった遺構と遺物

発掘調査は北東側（FK04－１）と南西側（FK04－２）の２つの地点で行いました。２地点とも現在の地表面から１～２ｍほどのところで江戸時代の蔵屋敷にかかわる整地や盛土が見つかりました（図７・８）。もっとも下では堂島川の改修にともなう盛土があり、整地されて屋敷が設けられたことがわかりました。それぞれの面で建物や塀を建てるための柱跡や礎石、ごみを捨てた穴などが見つかりました。そして幾度か火災にあった跡も確認されました。そのうち古いものは亨保元（1716）年の火災の可能性があります。

一方、遺物は２つの地点において江戸時代中頃から終わり頃のものがまとまって出土しました。陶磁器や土器、大量の瓦、骨や貝等の食べ物のかすなどが含まれています。蔵屋敷での生活のようすを知るてがかりとなるでしょう。

## まとめと今後

今回の調査では蔵屋敷にかかわる遺構が見つかりました。火事にあったようすやその後に屋敷を建て替えていくことなどがわかりました。当地の屋敷については中津藩や壬生、延岡藩をはじめ、いくつかの藩が屋敷を設けていたようですが、見つかった整地層や建物跡とあわせて地図なども調べ、具体的にどの藩の屋敷かなどの検討を進めていく予定です。

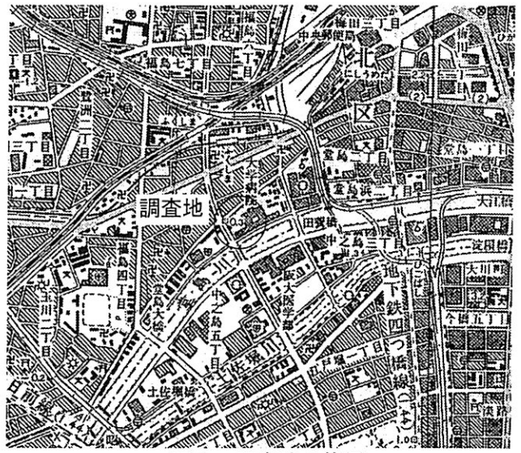


図１　調査地の位置

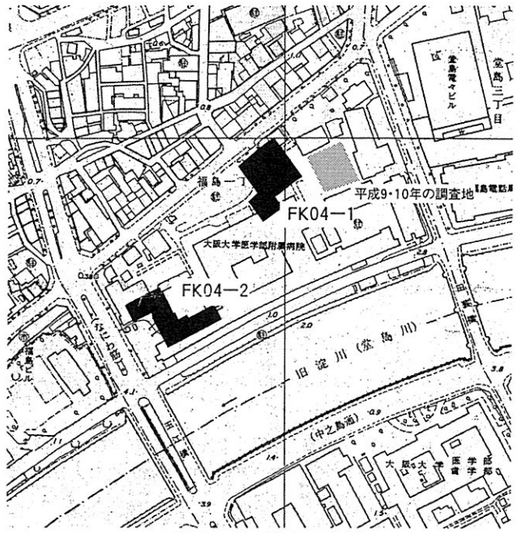


図２　調査区の配置

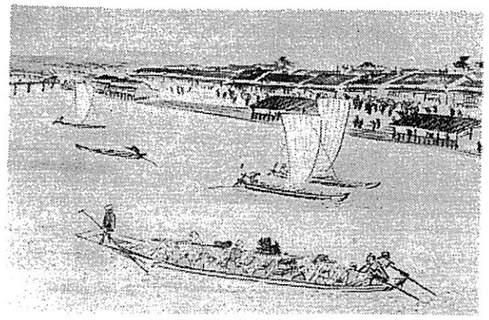

図３　堂島川付近

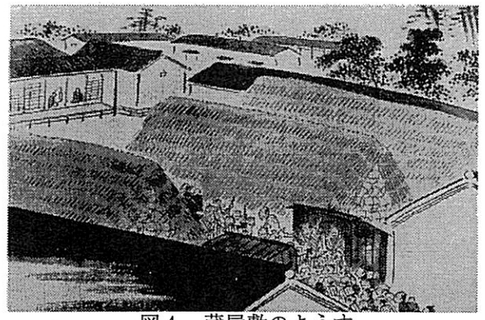

図４　蔵屋敷のようす

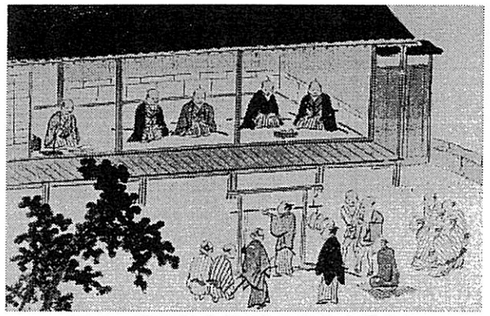

図５　蔵屋敷内部（米の目方を量る）

＊図３～５　『久留米藩蔵屋敷図屏風』（幕末頃）より

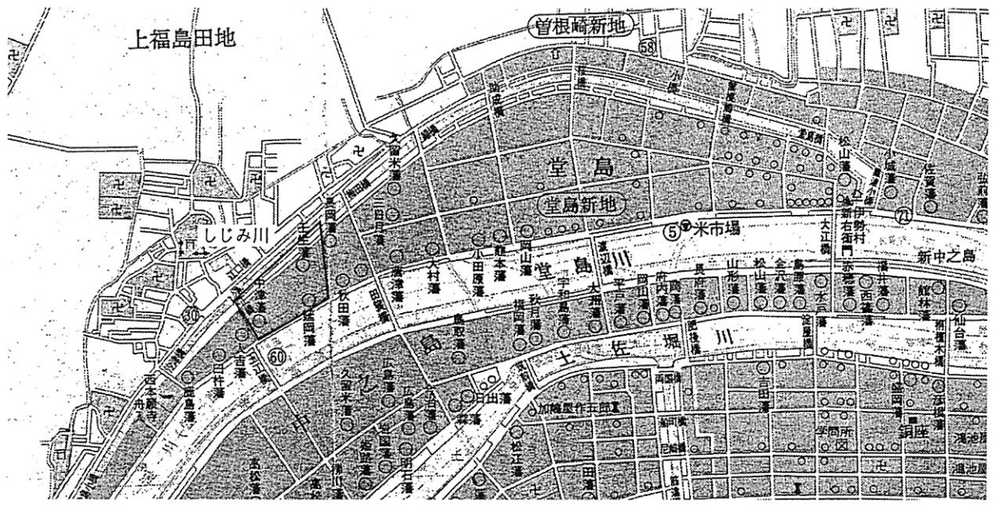


図６　蔵屋敷の配置と調査地（『まちに住まう』より）

## ＦＫ０４－１次調査区の成果

地層および遺構面は調査区の南東部で最もよく残存しており、少なくとも３面が確認されました(図７)。

このうちもっとも下位の**整地層３**は元禄期の堂島新地の成立期の盛土である可能性があります。その上で認められた遺構面には、堂島新地の成立以降18～19世紀代に築かれた蔵屋敷があったと考えられます。また数個所で火災を受けたとみられる面が確認されました。この面は、享保の大火(1716年)にあたる可能性があり、火災によって焼けた大量の瓦を捨てた穴(**瓦溜１～３**)や、その直後の整地にともなって作られた排水の溝(**暗渠１～３**)も見つかっています。この暗渠は北側にあるしじみ川への排水のためのものだったのでしょう。その後も調査地では数度の整地がなされ、各整地面で柱跡や溝、ごみ穴などが見つかりました。これらのごみ穴は瓦溜を避けるようにして掘られていることから、瓦溜の上には建物等が存在していた可能性があります。

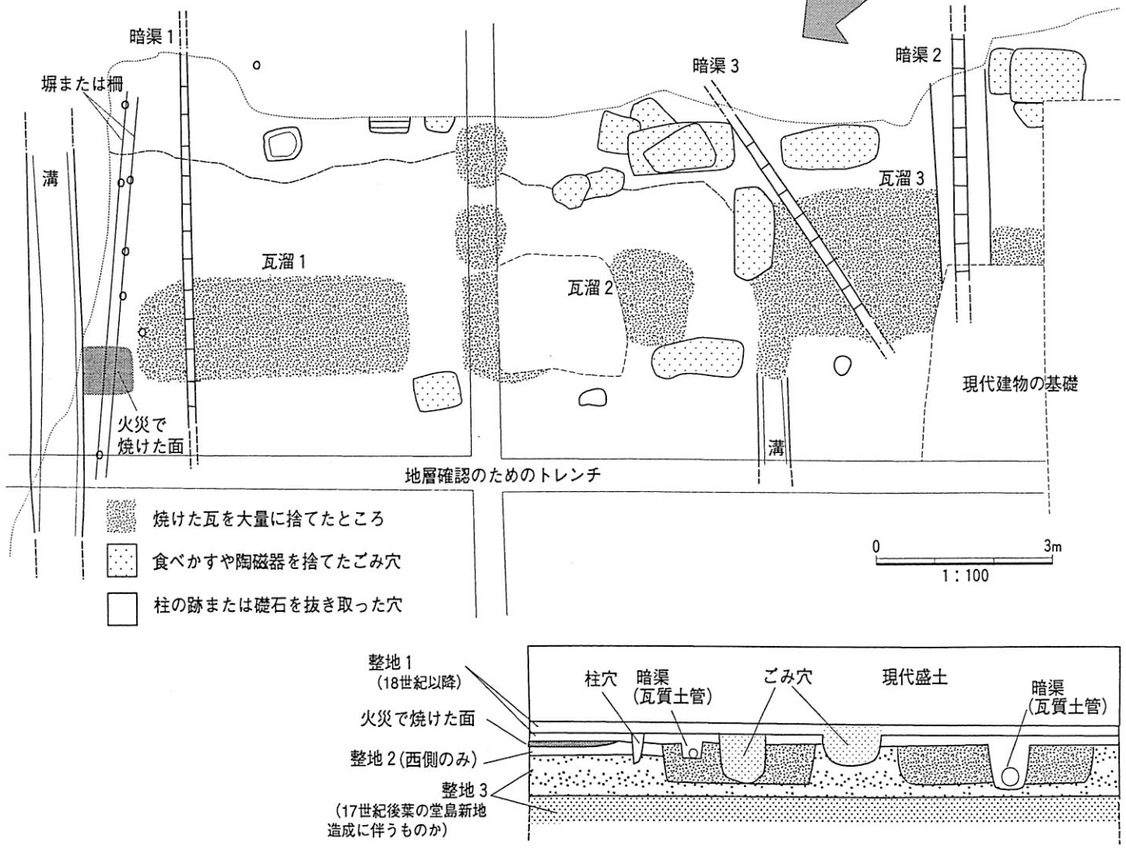


図７　FK04－1検出遺構の模式図

## ＦＫ０４－２次調査区の成果

地層および遺構面は調査区の南側の一帯で最もよく残っており、少なくとも３面の整地層が確認されました(図８)。

このうち、もっとも下位の整地層は元禄期の堂島新地の成立期の盛土である可能性があります。その上で認められた遺構面には、堂島新地の成立以降18～19世紀代に築かれた蔵屋敷があったと考えられます。

その各面で屋敷に関係する遺構が見つかっており、礎石や柱穴、溝・土壙などがあります。南東部の中央には南北方向の溝があり、その東西で整地の状況が変化することから、屋敷の敷地の境にあった溝の可能性が考えられます。柱を据えていた礎石や柱穴も見つかっています。ただし部分的にしか見つからなかったため、具体的にどのような建物があったかは明らかにできていません。ゴミを捨てた穴が数基見つかっており、江戸時代の陶磁器や瓦、食べ物のかすなどがまとまって出土しています。

また火災を受けたとみられる面が２面以上確認されました。そのうち下の面は享保の大火(1716年)にあたる可能性があり、上の新しいものは江戸時代終わり頃のもののようです。

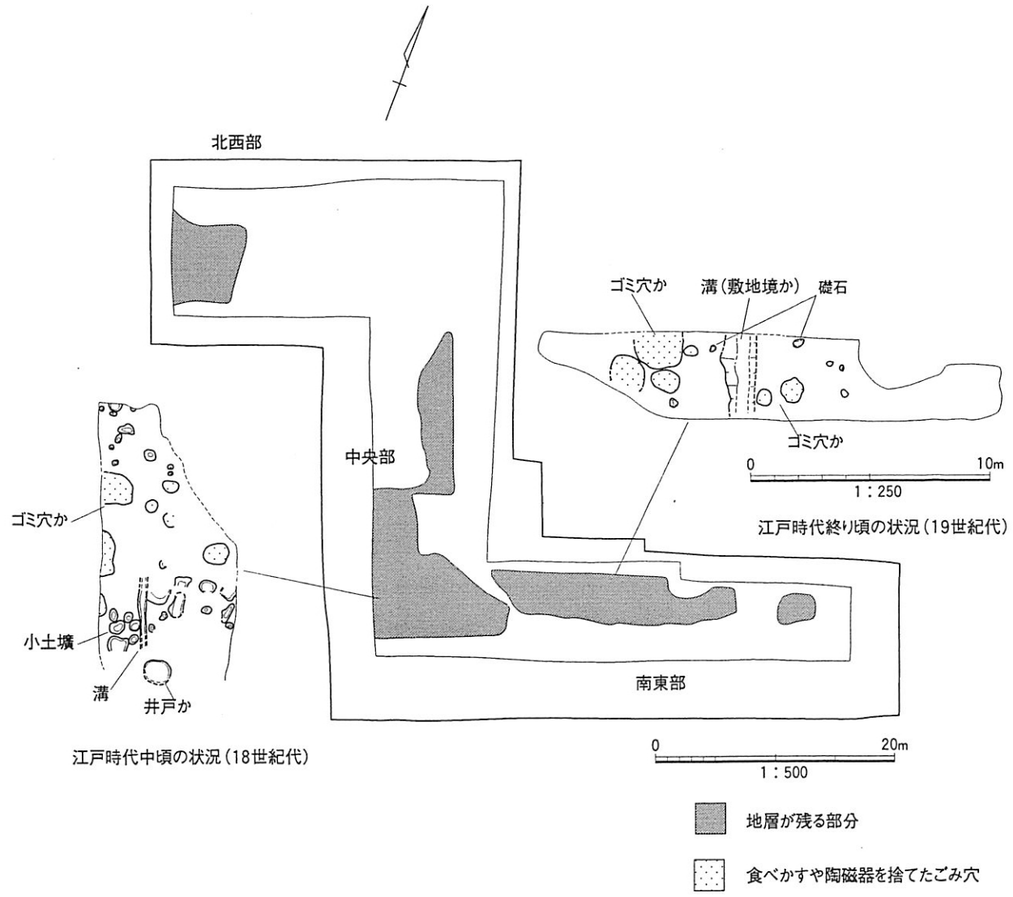


図８　FK04－2検出遺構のようす